

第3学年 道徳学習指導案

日 時 令和3年11月5日（金）

場 所 3年 組教室

授業者

1 主題名 いのちを考える（3）

2 資料名 人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える

3 主題構成表

■内容項目

D-（19）生命の尊さ

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

■価値の分析

- ・生命科学の進歩と発展により、これまでの想像を超えた方法で、人間の生と死に関わることができるようになった。そのため、生命倫理のあり方が社会的にも課題となっている。
- ・この時期の生徒は、生命がかけがえのないものであることは理解しているが、生命倫理の観点からそれらについて考える経験は少ない。
- ・社会科、保健体育、技術・家庭などの他教科等での生命に関する学習も踏まえつつ、多様な考えを交流することにより、生命倫理の観点からも生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど自分の考えをもち、生命倫理を踏まえた生命尊重への学びをより深めたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・尊厳死や生命倫理など様々な「死」を取り巻く問題に直面する経験が少なく、積極的に関心をもつ機会が少ない。
- ・生徒の多くは、世の中に存在するすべての命は平等であり、かけがえのないものであるという意識をもっているが、生命倫理の観点から生命について考えたことのある生徒は少ない。
- ・生命について仲間と話し合い、その尊さについて共通の認識をもっている。

■要因

- ・「生」については様々な場面で学び、生命の尊さについては理解を深めてきた。しかし、多様化する生命の在り方に直面する機会が少なく、生命倫理の観点から生命について考えることがない。
- ・学校生活の様々な場面で、生命について話し合い、考えを深めてきた。

■資料の分析

- ・本教材は、カレン・クインラン事件という、アメリカで「尊厳死」ともいわれている一つの死をめぐる争われた裁判事件の概要を述べた知見教材および葛藤教材である。生命倫理という現代的な課題を理解し、生命尊重についてより深く学ぶために適した教材である。
- ・カレンさんの家族、主治医や裁判所等の方々のそれぞれの立場に立って、現実のこととして考えることで、立場は違っても「かけがえのない『カレンさんの命』を大切にしたい」思いは同じであり、「命を大切にする」ことの難しさと大切さに気付かせたい。
- ・『「カレンさんの命」を大切にす」とはどういうことかを話し合うことで、生命尊重への見方や考え方をより深めるために適した教材である。

■ねらい

尊厳死をめぐる裁判をもとに、生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

■展開の構想

- ・これまで様々な場面で「命」について学習してきたことを振り返り、「命を大切にする」ことについて多角的に学習できるようにする。
- ・カレンさんが望む命の形を求めるカレンさんの両親も、命を生かすことや回復の可能性を捨てきれない主治医や裁判所の方も、それぞれの立場から命を大切にしていることに共感させ、「命を大切にする」ことの難しさに気付かせる。
- ・「命を大切にする」ことについて、自分の考えをもちたり仲間と交流したりして、多角的・多面的に考えさせる。
- ・前回までの道徳や本時考えたことを踏まえて、自他の生命の大切さを深く自覚し、尊重するためにどう行動すればよいかを考え、記述させる。

■基本発問（◎中心発問）

- 「人間の命」とは何か。
- 医療措置を打ち切るようにお願いしたカレンさんの両親と、医療措置の打ち切りを認めなかったカレンさんの主治医や、州の裁判所の方々は、それぞれどのような思いだったのだろう。また、どちらに、より共感できるだろう。
- ◎意識を回復する可能性がほとんどないカレンさんの「命を大切にする」とは、どういうことだろう。
- 自分や周りの「命を大切にする」ことを意識して、これからどのような行動をとればよいだろう。

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■ふるさと大垣科
 「HUG(避難所運営ゲーム)」
 ・「HUG」の体験を通して、自分たちの生活する地域を想定し、具体的に自他の生命を守る行動はどのようにしたら良いか考える。

■道徳の時間
 「生まれてきてくれて、ありがとう」内容項目 D-(19)
 ・生命の誕生に対する奇跡・連続性・有限性を知り、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。
 「くちびるに歌をもて」
 内容項目 D-(19)
 ・どんな困難な状況でも自己の生命を守り、大切に生きていこうとする態度を育てる。

■道徳の時間
 「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」
 内容項目 D-(19)
 ・尊厳死をめぐる裁判をもとに生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育てる。

■学校行事
 「人権集会」
 ・人権について仲間と話し合ったり、取り組んだりすることで考えを深め、日常生活において人権を大切にしたい言動をしようとする実践意欲を育てる。

■日常生活
<進路実現に向けて>
 ・自分がどのように生きていきたいかという将来の展望を具体的にもち、実現に向け今の自分がすべきことを考え、実行できるようにする。また、同じ願いの仲間を認め、励まそうという意識をもたせる。

<朝の会・帰りの会>
 ・「先生の話」で、一人一人がかけがえのない存在であること感じた生徒の姿や教師の経験を学校生活に関わらせて語ることで、互いの思いを大切にしなければならぬという意識をもたせる。

■教科
<社会科>
 ・「人権と共生社会」の学習では、基本的な人権の尊重とはどのような考え方で、どのような役割を果たしているのかを学び、生活の様々な場面で尊重されるべき大切なものであるという意識をもたせる。

<保健体育>
 ・「健康な生活と病気の予防」では、健康の増進や病気の予防や治療をするための社会の仕組みも学習し、友に健康と命を守ろうとする知識と意欲を高める。

<技術家庭科>
 ・「私たちの成長と家族・地域」の学習では、「共生」の意識をもって家族や地域と積極的に関わろうという意欲を育てる。

<生徒の意識>

・これまでの学校生活の中では仲間と協力したり、努力したりして、成長できた。
 ・今後の人生を生きていくために今必要なことまでは考えられていない。

・新しい命の誕生は奇跡であり、一つの命が生まれるまでに多くの命がつながっている。そして、その命は永遠ではない。だからこそ、自分の命も他人の命も大切にしなければいけない。
 ・どんなに苦しくても、生きることを自分からあきらめてはいけない。

・自分の命も周りの命もかけがえのないものだから大切にしなければいけない。
 ・「生命倫理」にまで踏み込んで考えたことはあまりない。

・人権は、人間が人間らしく生きる権利で、全ての人に保証されているものだから、大切にしなければいけない。
 ・かけがえのない仲間と温かい関係を築き、一緒に過ごせる時間を大切にしていきたい。

<指導・援助>

・中学校生活を通して成長してきた姿を学級全体で共有し、考えを深める。
 ・中学校を卒業してからの生活を具体的にイメージさせ、自分の生き方について考えさせる。

・生命誕生には、多くの人々が支え合っていることに気付かせる。
 ・生命誕生に伴う喜びや感動、重責に気付かせる。
 ・すべての命はみな平等で、尊重されなければならないことに気付かせる。

・命についての多様な考えを交流することにより、『人間の命』を大切にすることへの本質に迫り、生命尊重への学びをより深めたい。

・人権について改めて考え、取り組むことを通して、かけがえのない仲間とのより温かい関係を築くために自分から行動していこうという意欲をもたせる。

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもつ。</p> <p>○「人間の命」とは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が生きているということ。 ・自分の意思で行動し、生きている人間。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時、前々時のまとめや1・2年生での命に関する学習、他教科での「命」に関する学習など、これまで様々な角度から取り組んできた命に関する学習を想起させ、「命」について多角的に考えて学習できるようにする。
展開前段	<p>2. 資料「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」を読み、話し合う。</p> <p>○医療措置を打ち切るようにお願いしたカレンさんの両親と、医療措置の打ち切りを認めなかったカレンさんの主治医や、州の裁判所の方々は、それぞれどのような思いだったのだろう。</p> <p>また、どちらに、より共感できるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンさんの両親は、機械で生かされている姿は、人間として生きているとは言えないし、この状態を本人も望んでいないだろうから医療措置を打ち切りたいと思った。 ・カレンさんの主治医や、州の裁判所の方々は、回復の可能性がないわけではないし、今生きている命を死なせてはいけないという思いから医療措置の打ち切りを認めなかった。 <p>◎カレンさんの「命を大切にする」とは、どういうことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンさんの命を大切にするということは、カレンさんのことを心から大切に思って、どうすることがカレンさんのために最も良いのか信念をもって決めることだと思う。 ・カレンさんの命を大切にするということは、カレンさんの人間性も含めて尊重して大切にすることだと思う。カレンさんの今までの生き方から、どうしてあげるのが一番いいかを考えるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞きながら、「わかる」、「どうして」と思う部分に線を引かせて範読後、交流する。 ・カレンさんの状態を補足説明してカレンさんの状況を理解したり、それぞれの立場の考えを板書に位置付けたりして、状況を整理した上で考えられるようにする。 ・カレンさんの両親と、主治医や裁判所の方々のどちらにより共感できるかを、カードに示して提出させる。自分や仲間の考えを明確にした上で話し合えるようにする。(タブレット使用) ・双方の考えを交流することで非常に難しい選択であること、そしてその難しさは「命を大切にすることはどういうことなのか」であることに気付かせ、次の発問につなげる。 ・オクリンクのカードに自分の考えを書いて提出し、クラスで共有する。(タブレット使用) ・「わかる」「どうして」の線を引きながら仲間の意見を読み、自分の考えと仲間の意見を比べられるようにする。 ・仲間の様々な意見を聞く中で、「命を大切にする」とは、単に生き物として生きている命を大切にすることだけでなく、人間性も含めて尊重することが大切であることに気付かせる。
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○自分や周りの「命を大切にする」ことを意識して、これからどのような行動をとればよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命」を大切にするということは、生きている日々の中身を大切にすることだと思った。自分が今生きているのは、奇跡のようなつながりの上で命があるおかげなので、限りある命を大切にするために、自分の目標に向かって一日一日を精一杯生きていきたい。 ・「命」の学習を通して、自分の命は周りの人との関わりの中で生きている命なのだと思った。そんな命を大切にするために、家族や友だちのことが理解できるような関わりをもち、思いを尊重し合って生きていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「命」に関する学習の総括として、これまで考えてきた「命の大切さ」に加えて、本時考えた「命を大切にすることはどういうことか」を踏まえ、これから自分がどのような行動をとるのかを考え、記述させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】</p> <p>「命」についての学習やこれまでの自分自身を振り返り、自他の「命を大切にする」ことを意識して、これからどのように行動すればよいか考えている。</p> </div>
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「命を大切にする」ことが自分や周りを大切にすることにつながるという希望をもたせるような説話をする。

